

登録地点から駅までの歩行を支援するアプリの制作

女屋育英

日本における生活習慣病の患者数は年々増加傾向にある。いくつかある生活習慣病の疾患の中から糖尿病に絞って見てみると、厚生労働省の実施した「国民健康・栄養調査」によると、「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計人数は平成 19 年以降減少しつつある一方で、「糖尿病が強く疑われる者」の推計人数はおよそ 1100 万人と、平成 9 年以降増加し続けている事が分かる。予防の主な方法として、食生活の見直し、禁煙や禁酒、適度な運動等を挙げることができる。課題解決のためには、国民一人ひとりが主体的に生活の改善に取り組むことが不可欠だが、様々なストリーミングサービスやゲームといった、自宅から一歩も外に出ることなく享受できる娯楽が発展し誘惑が増え、働き方改革によってデスクワーク等が増加し多忙となった現代において、日常の中で継続的な運動習慣を確立するのは容易ではない。

本作品は、通勤や通学、買い物に行く際、車やバスだけではなく徒歩による移動も兼ねた運動を行うことを促し、普段あまり意識的に運動をしない人や、時間を効率的に使いたい人に向けた、歩行を支援するルート案内アプリケーションを制作することを目指した。なお、本アプリケーションを制作するにあたり、今年度の上地ゼミのサブテーマである「生成 AI によるアプリ制作補助の可能性を知る」にのっとり、Google の提供する生成 AI、Gemini を用いた開発環境である Google AI Studio を用いた。

結果として、AI による補助もあり、当初の目的通りのアプリを制作することができたと考えられる。利便性を高める様々な機能を導入したこともあり、評価アンケートはおおむね高評価であった。AI による制作補助については、かなり有用であるという印象であった。これらのような AI を用いることで、様々な要因で実装を断念した機能の実装を実現することが可能で、初学者も学習しやすい環境が到来したと言える。